

こけし、かだる？ 鳴子編

雨のしずくでケヤキの緑が濃くなった日曜日。

こけし、かだる？鳴子編のゲストは桜井昭寛工人。



会場に「こけし囃し」が流れ、ついつい体が動き出します。

第60回全国こけし祭りのポスターも飾り楽しい雰囲気。

桜井工人は自宅にあるこけしだけでなく、工人仲間に声がけしてくださって

高亀こけし店さんから柳宗理とコラボレーションした木地玩具（鳩笛・亀車の他にも！）
や

こけしの岡仁さんからも中学生の時にこけしクラブで作ったこけしを持ってきてください
ました。



師匠昭二工人のこけしは東京オリンピックの聖火台モチーフこけし、エジプト風のこけし
やビーナス風の長い髪をしたこけしなど。

桜井工人のおひなさまこけしは種類もたくさん。

開始前からこけし達に注目が集まりました。

参加者は約 40 名。

マイこけしは鳴子系が多く見られました。

こけし歴が長いこけし先輩や、

こけし界のドアを叩いたばかりのかたもいらっしゃっての会となりました。

桜井工人から鳴子系こけしの説明をしていただきます。

「私が説明しなくても皆さんはご存知だとは思いますが。」と前置きして鳴子系の頭を回すとキュッキュとなること、胴が太目なこと、師匠である昭二工人のことなどを途中笑いも起きるような話も交えながら紹介していただきました。

地元の小学生に鳴子ナンバーワン工人と評される桜井工人。

お話が楽しいです。

参加して下さった皆さんのこけしのお話をうかがう「こけし語り」から。

津軽系のこけしをお持ちいただいた男性。

「初めは奥瀬鉄則工人のこけしを、亡くなられてからは奥瀬陽子工人、今日は息子さんの恵介工人のこけしを持ってきました。」

こけしと工人さんに魅せられて交流が長い年月も続いている素敵なお話。

自宅の茶箱 10 箱の中から久しぶりに出して連れてきたこけし。

「たくさんこけしを集めていたのに転勤が決まってしまって。」

当時の想いを話して下さった男性。

こけし雑貨を作っている女性。

ドアノブにかけるプレートをお持ちくださいました。

こけしを見ると自分なりに作りたくなる気持ち、分かります。

ご主人の実家に眠っていたこけしを発掘し、

磨いてお持ちくださった女性。

年月がたち描彩があせ、木地は日に焼けて古さを物語っているもの、

びっかびかに磨かれたこけしにキュン。

初めて購入したこけしをお持ちくださった女性。

可愛らしさを語る様子にこれからどんどんこけしが増えてくることを想像します。

桜井工人のおひな様をお持ちくださった女性。

「とても可愛いのでぜひ皆さんに見ていただきたくて。」

色紙とかごに小ぶりのこけしをたくさんのこけしをお持ちくださった男性。

「津波にあったこけしです。可愛がっているこけしは身近なところに飾っていて、

そういうこけしが被害にあいました。」

胴模様の描彩が濡れて滲んだり、色落ちしていたり。

「処分も考えたのですが、妻がそれはかわいそうだと申しまして、布で拭いてやりました。」

大事にしていたこけしには思い出や愛情が込められていて単なる物ではありません。

美しい模様はなくなってしまっても

そのこけしの美しさ、思い出や愛情は消えたりしません。

会場が皆さんの温かい気持ちで満たされていくように感じました。

こけしぼっこ山田が質問を投げかけます。

「こけしの収納、皆さんはいかがされていますか？」

こけし好きにとって誰もが持っている共通の悩み。

好きなこけしが増えるのは嬉しいけれど、スペース確保はもちろんのこと地震対策は特に。

これはこけし歴が長いこけし先輩方に聞くのが一番。

「棚に飾っています。地震の時はこけしが倒れて大変でした。

対策は特に無く、季節ごとにこけしを並べ変えています。4 シーズン！（指を4本立てて）」

なんと！

季節ごとに並べ替えるなんて展示館並み。

「ひとつひとつ布で磨いては並べます。」

愛でるための手間のかかる作業を、何時間もされているのでしょうか。

こけし愛のなせる業。

大人の遊びであります。

「私は地震があるので箱に入れてます。」

「私は地震の時はこけしの棚の扉のガラスが割れてしまって

掃除をするのに何か月もかかりました。

棚にワイヤーを取り付けて落下防止はしていますが、

こけしは頭が重いのでどうしてもねえ。」

「僕は落下すると怖いので床置きしています。」
こけしの地震対策は永遠のテーマのようです。

こけし先輩がこけし情報を教えてくださいました。

「西公園のこけし塔、あれはあの型こけし。(桜井工人がマイこけしとして持参して下さったものを指さしながら。) 鳴子系のこけしの始祖と言われたもの。当時自衛隊が山形から運んできたそうです。」

鋳物で漆塗装されたこけし塔を輸送する自衛隊の車。

ものものしいけどユーモラスな光景を想像します。

改めて見に行かなくてははいけません。

ホットな情報を皆さんと共有する面白さ。

会場で「へえ！」と声が上がりました。

最後に桜井工人のマイこけしを2体紹介していただきました。

「このこけしはうちの家系をたどるとここに行きつくという
鳴子系のこけし先祖と言われているものです。

又五郎型といって、師匠の昭二が復元した記念のこけしです。



髪がたっぷりと描かれて邪馬台国の人々の髪型のような。
顔の表情も現在の鳴子系のこけしと違うように感じます。

「もう一本は昭和 39 年の東京オリンピックの年に中学校のこけしクラブで
作ったもの。
選手団に 8000 体作って贈りました。
顔は誰が描いたか不明ですが胴模様は私が描きました。」



中学一年生が描いたとは思えない筆の運び。
桜井家の歴史の大切な2体のこけしの貴重なお話でした。

ここからは桜井工人の一日、一年、人生のお話を伺います。

まずはある一日から。
朝6時に起床。

今日は何をしようかと考えます。
この日は山の工房へ。
鳴子のこけしはミズキを使います。
いかに白さを保ち仕上げをするかがテーマだそう。



昔は炭焼き職人さんからミズキは燃やすと灰になってしまい
炭に向かないのでもらっていたそうです。
仕入れ先は岩手県の宮古。
宮古は震災で大きな被害を受けた地区。
すぐ連絡を取り無事を確認したそうです。

7時開店。
接客は妹さんが担当です。



9時半。

こけし祭りの招待工人の依頼をしにいく仲間の見送り。

こけし祭りでの工人さんはろくろを挽いているイメージが強いですが
地元の工人さんはお祭りの準備に大忙し。

秋はこけし祭りが各地で開催されるので招待工人の確保が課題。

招待工人の依頼は電話ではなく、直接会いに行くのだそうです。

10時。

後藤工人宅でこけし祭りの手ぬぐいのゲラの確認。

今年は60回目のこけし祭りなので手ぬぐいの販売を充実させて全18種類を販売予定。

こけし祭りで手ぬぐいを楽しみにしているお客さんはたくさんいます。

参加者の中にも手ぬぐいを暖簾やバックに仕立てて活用しているというかたもいらっしゃいました。



12時。

商工会で7月に東京巢鴨にある高岩寺の展示の打ち合わせをしながら昼食

午後からは店の隣の工房で木地挽き

作業が細切れになるときは集中する絵付け作業ではなく木地挽きをするそうです。



18 時夕食

19 時閉店

20 時まで作業 20 分作業をして 10 分休み （テレビを見たり、家族と話したり）

24 時就寝

お祭りの前は人に会って打ち合わせをすることが多く

まとまった時間にこけしを作るのが難しそう。

忙しい日々の中で on/off の切り替えはどうしているのかと伺うと

首をかしげて「どうしてるんだろうなあ？」とご自分でもわからない様子。

打ち合わせの後のおしゃべりで切り替えているのではないかなあと

おっしゃっていました。



次に一年間のスケジュールを伺います。

ある一年（2014）。

1 月 春を待つ人形展 （1/23-2/20 秋田県秋田市ル・エタージュ）

おひなさまこけしで参加（30 点作る）

- 2月 東北復興支援 鳴子こけし実演展示イベント打ち合わせ
現場でどんな風にディスプレイするかをイメージするそうです。
- 3月
- 4月 乾燥中の木材から使えるものが出始める。
乾燥方法は木材の様子を見ながら。皮の剥き方を毎回試行錯誤。
- 5月
- 6月 こけし祭りの打ち合わせ
今年は60回という記念の年。
こけし11系統を取りそろえる目玉企画があるそうです。
- 7月 東北復興支援 鳴子こけし実演展示参加(7/2-7/6 とげぬき地藏尊高岩寺信徒会館)
- 8月 盆踊り こけし通り地域の催事。
鳴子は地域の結びつきが強くお葬式や運動会も地域で行います。
こけし祭りでは獅子舞を演じます。桜井工人は笛を担当。
- 9月 第60回全国こけし祭り(9/1-9/2 鳴子小学校体育館)
毎年お目当ての工人さんのこけしを購入しようと何日も前から行列ができます。
参加者のかたにどのような状況なのかを伺ったところ当日の朝6時には40人くらい
並んでいて整理券が配られ、開始時間になると順番に体育館に入場したそうです。
激しい争奪戦が繰り広げられると想像していました。
実際は整然としているのでした。
桜井工人の話によると行列しているそばで、会場の警備という名目で若手工人が集
まり交流会(お酒あり)を行っているのだそうです。
「お客さんには申し訳ないんだけど。」

会場に飾っているポスターは第1回全国こけし祭りのポスターに彩色したものだそ
うです。

こけし祭りの様子の写真を見ながらお話を伺います。
写真は愛好家のかたがまとめてくださったものを桜井工人からお借りしました。
古い写真が中心で当時の盛り上がりがよくわかります。

パレードで張りぼてこけしが練り歩く写真。



(お借りした映像資料より)

張りぼてえじこからニョッキリ足がでてるのがなんともおかしくて。

80年代でしょうか？聖子ちゃんカットをしたミスこけしの写真。

獅子舞の横で笛を吹く桜井工人の写真。

「よく覚えたよなあ。今は覚えろって言われても出来ないよ。」

昔はこけし囃しのコンテストがあったそうです。

ポリネシアン風の半裸の女性が激しく踊っている写真。

こけし祭りでもポリネシアン。

この取り合わせにお祭りの盛り上がりの熱さを感じます。



(お借りした映像資料より)

子供神輿はこけしの張りぼてが乗っているのが可愛らしい。

「こけし工人在学校まで呼び出されて顔を描くのですよ。

地域によって顔が違います。」

強烈な印象を与えたのは激しく燃える炎に黒いこけしのシルエットが浮かぶ写真。



(お借りした映像資料より)

失敗したこけしなどをこの時に燃やすのだそうです。
サスペンスドラマのワンシーンを思わせるような1枚でした。

10月 紅葉 観光客がたくさん訪れます。
こけしはお土産としても存在するもの。

この時期は県外のイベントなどに出向かずに地元でしっかりとお客様と向かい合うそうです。

11月 鳴子こけし祭り 横浜人形の家展参加
東北復興支援 鳴子こけし実演展示参加（とげぬき地蔵尊高岩寺信徒会館）

12月 木材が宮古から到着 プームの頃は100石仕入れていたが現在は15石。
クリスマス向けのこけしは作らずに、おひなさまこけしのアイデアが
どんどん浮かぶのでそちらに力を注いでいるそうです。

こけし祭りはもちろん、観光シーズンは行楽客との交流を大切にされていたり、地域の催事も積極的に活動されています。

その中で秋田のギャラリーの出展理由は「おひなさまだったから。」

桜井工人はおひなさまを積極的に製作されていますものね。



続いて人生に迫ります。

桜井昭寛工人の人生

1951年（昭和26年）6月2日生まれ 幼少時代はモノづくりが好きな子供。

鳴子小学校に入学。

同級生は高亀こけし店の高橋武俊工人。

鳴子中学校に入学。

昭和 39 年東京オリンピックに向けて選手団に贈るこけしを
こけしクラブで 8000 体製作。

こけしクラブに工人さん達が出向いて指導にあたったそうです。

祖母の桜井コウさんもその中の一人。

あまりの忙しさにこの年のこけし祭りは中止。

中学 1 年生だったので木地挽きはさせてもらえず描彩部隊。

2, 3 年生が轆轤部隊で木地挽きをしたそう。



このままこけしの世界へと歩み始めるのかと思いきやバレーボール部に転部。

理由は「面白そうだったから。」

古川高校に入学。

スキー部に入部。

スキーは他の地区の学生はやらないが鳴子地区の人は全員やるそうです。

「スキーはこのあたりに住む者の定め。」

高校卒業。

こけし工人の道へ。

こけしクラブで面白いと思ったのがきっかけ。

20代にみずきの会を結成。

岡崎斉一工人を中心に結成した若手工人の会。

祭りの運営を担うように。

みずきの会で積極的に地域にかかわる仕事に取り組む。

「ここでたくさんのことを学びました。」

40代に昭寛型のおひなさま製作開始。

「皆がおやじと同じものを作っているけれど、自分は違うおひなさまを作りたい。」

今まで何種類作ったのか質問してもわからないとのこと。

ああしたい、こうしたいといろいろなアイデアが浮かび、

それを追いかけるように製作をするそうです。

振り返らず常に前を見て製作途中では完成図が見えておらず、

完成してこんなものが出来たんだと自分で驚くそうです。



2014年 64歳 現在。

今後の展望は何かとお聞きしたところ、昔の型の復刻を手掛けたいそうです。

新しいものを生み出す力と伝統の型を大切にしたい。

2本の柱がしっかりとあるんですね。

地域の仕事も積極的にこなしながらこけし工人の仕事に打ち込む姿はエネルギッシュ。

目が回りそうな日常を過ごしながら楽し気に見えるのは

どんなことに対しても面白そうだからやるという考えがあるからこそ。

「おやじに似ているのだと思います。昔は家に職人が何人もいて新型こけしも作っていました。だから伝統型だけに囚われずに自由に発想するようになったのかもしれない。」

伝統工芸の世界、地域との結びつきが強いと考えも縛られそうですが、
師匠である昭二工人や環境の中で芸術家センスが磨かれたのでしょう。

取材をした時に「パニックになったりしませんか？」と質問したら

「なりますよう。よくわからないけど、でもなんとかかなっちゃう。」

流石であります。



最後に参加者の皆さんから感想をお聞きしました。

私はこけしをまだ持っていませんが、お話を聞いて欲しくなりました。

桜井さんや皆さんの話を聞いてこけしには命があるのだなあと思いました。

気仙沼で震災で津波に会いました。

玄関にこけしを飾っていて（こけしが）いらっしゃいと言っている気がしてた。

着のみ着のまま逃げて助かりましたが、あのこけしはどうしたのだろう。

うちにはいただきものの大きなこけしがあるのだけれど横に寝かせてしまったままです。

皆さんの話を聞いていたら命あるものなのになあと。作っている人の前で申し訳ないのですが。

こけしを通して皆さんの心が通い合う瞬間を感じました。

こけしのお話をしながらいつの間にか自分を振り返るようです。

今回のこけし、かだる？は桜井工人の貴重なお話を伺うだけでなく、東北で暮らす人の思いにも触れた会になりました。

